

九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

Studies in Chinese Literature

<http://hdl.handle.net/2324/9887>

出版情報：中国文学論集. 15, 1986-12-31. The Chinese Literature Association, Kyushu University
バージョン：
権利関係：



編集後記

岡村・劉兩先生という空前の名コンビに、手をとりあって官を去られた我々中文研究室は、しばし茫洋たる前途に舵を失した感があったものの、世代交代は世の常、ならば若さをこそ武器にと新しい氣風を開きつつある。

とはいえ、蕩蕩たる者は我が良き傳統。昭和四十年に始まつた文藝座談會は、本年終に百回を迎え、目加田先生には貴重なお話を頂いた上、本會にも多額の御寄附を頂戴した。また、演習室には、至高を希求するかの如くまなざしの殿しい目加田先生の寫眞に並んで、今にも語りかけてこられそうな柔和な岡村先生の眞影とが常に我々を頭上から見おろし、歴史の重みと傳統の深さを我々に威嚇しておられるかの如くである。蓋し歴史とは時間の流れに非ず、傳統とは個人の中に流れるものであれば、我々は個々の存在の内にこそその薰陶を賞味せねばなるまい。書庫に積まれた萬卷の書と供に、これら恵まれた先達という財産を、受容しかみくだき自らの滋養として消化することこそ我々次の世代の使命であらう。忘れ難き恩師の思を常に肌身に感じつつ、常にそれに挑戦し格闘することを以て、我々は師に報いていくことが出来ると信じる。

この文學論集一書が、その良き機會となることを希望しつつ、長年に涉り暖かく我々を御指導下さった岡村、劉兩先生の御退官を、本號を以て記念させて頂きたい。